



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2008年10月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中!!

～ '08 9/14 神通研集会報告 ～

今年の集会も多くの方々のご協力の中、無事終了することが出来ました。

世の中が便利になり、日常生活は誰かを頼らなくても困らない昨今、個人の損得で動くことが多くなりました。

ある意味、貴重な3連休の1日、参加費と交通費と時間を掛けて参加する集会はひとつ前の時代のやり方なのかもしれません。でも、そこに集まった方々から学び得るものは、とても大きなものでした。

手話の世界も個人で「手話を学ぶ場所」はいろいろな形で増えています。

では、サークルは?今年の分科会「手話サークル」で再確認されたことは、「サークルは手話に学ぶ場所」であること。

サークルが聴こえない人にとって参加しにくい場所になっているのだとすれば、それは「手話を学ぶ場所」になっている・・・ということかもしれません。

～ 定例会 ～

9月は集会があったため、定例会はお休みでした。

集会時の雑談の中で、地域のサークル運営で悩んでいるのご意見もありました。

「サークル研究班」の定例会では、小さな悩みから大きな問題までいろいろと話し合われます。

悩んだ時には一人で抱えないで定例会へ!

みんなで妙案を出し合いましょ!!

【次回定例会】

10/11(土) 10:00~12:00
かながわ県民センター 12F
ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき～

私が勤めている保育所には、4か月の子から小学生まで幅広い年齢の子たちがきています。

小学生ともなると素直に願いをきいてはくれませんが、食べたおやつのごみはそのまま。帰る時間が近づいているのに遊びに夢中で準備をしない等々・・・でも、この子たちが、小さい子が多くてこちらがあたふたとしていると、すーっと来て、手伝ってくれるのです。

いつも良い子の必要はなく、いざという時に相手の立場を察することが出来る。これが大切なんです。

～南風～